思いやりそして努力　奉仕そしてよろこび

りりい

VOL.3
2019年 秋号

社会医療法人
喜悦会グループ

那珂川病院
ちくし那珂川病院
二日市共立病院
オレンジハウス清和
デイサービスセンター清和

那珂川病院の歴史

社会医療法人喜悦会
那珂川病院
理事長 **下川敏弘**

今年は当法人喜悦会設立60周年にあたります。11月末には、その記念誌発刊を予定しています。60年前の昭和34年に法人設立に尽力された井上繁孝先生は、なんと同年の国家試験に合格されたばかりでした。そして法人理事と那珂川病院の前身である筑紫療養所の管理者に就任されました。では理事長は誰かというと繁孝先生の母親の井上キクノ氏でした。なんとエネルギッシュなことでしょう。感心してしまいます。

ところで、当院の起こりとなると2代程さかのぼる必要があります。繁孝先生の祖父の井上繁吉先生が、明治21年に福岡県立医学校を卒業後医師免許を取得され、現在の那珂川市松木に開業されました。当時の筑紫郡はとても広く、九大や中洲･春吉･警固までも含めていました。井上繁吉先生はその後第5･6代筑紫医師会長を務められています。繁吉先生の長男俊一先生がその後を引き継がれ、第25代の筑紫医師会長も務められています。繁孝先生は俊一先生の三男にあたります。繁孝先生が卒業された頃は俊一先生は体調を壊されており、妻のキクノ氏が初代理事長となられました。ちなみにキクノ氏の旧姓は朔で竹下のさく病院が実家です。井上現会長の叔母にあたります。

昭和39年には現在の地に那珂川病院は48床で開院しました。当時から地域に根ざした医療が目標でした。昭和54年には那珂川病院が現在の地で162床となり原型ができあがりました。 今では、法人としては3病院を持ち、老人ホームとデイサービスと在宅支援センター各１施設も経営しています。

繁孝先生が昭和60年4月に急逝し、その後は井上史子理事長を川辺一寛先生、朔淳一先生、など本当に多くの先生に支えていただき、翌61年1月に木村専太郎院長をお迎えすることができました。私は平成6年に入職し、平成13年4月から病院長、平成29年6月に理事長を併任し、平成31年1月からは理事長専任となりました。

私は、地域で必要とされているものを提供できるようになりたいと思いつつ、病院運営を行ってきました。患者さんやご家族だけでなく医療関係者にとっても必要なものです。筑紫郡那珂川町から起こった喜悦会は福岡市南区で育ちました。起こりや立地も考えて福岡医療圏と筑紫医療圏、2つの医療圏にこれからも貢献したいと考えています。

元号も改まり新しい時代の中で人々の笑顔があふれる社会と世界の平和を願っています。社会医療法人喜悦会は社会貢献を目指して、人々の笑顔のために活動してまいります。これからもよろしくお願い申し上げます。

家族との関わりを通して

臨床心理士　稲田 翼

緩和ケアの領域において“家族は第二の患者”という言葉があるように、ご家族も患者さん同様、様々な局面で気持ちが揺れ動きます。そこに、元々の家族関係が絡み合うことで「なんでもっと早く…してやれなかったのか」と強い後悔を抱きながらも、何をしたらよいのかと患者さんのそばで戸惑っているご家族のお姿を目にします。

そのようなご家族の複雑なお気持ちに触れ、私共とできるケアを共に考え、行動することで患者さんとご家族との間で、言葉以上の思いが通い合うきっかけ作りを心掛けています。

そして、退院後のご家族から「あの時初めて父（母）の身体に触りました」「お風呂で一緒に身体を綺麗にさせてもらってよかった」「今まで自分の知らなかった故人のことが知れた」という言葉をいただくことがあり、ご家族が患者さんの療養生活に関われた経験がこれからのご家族の支えになると感じています。

患者さんが繋いで下さったご縁は入院中だけのものではなく、退院してからも大切にさせていただきたいと思います。

～家族会の案内～

那珂川病院緩和ケア病棟では、当病棟で大切な人を亡くされた方を対象に『家族会』を毎月１回開催しております。この集いは、ご入院中のことやその後の生活の中でのことなど、今この時に皆様がお話ししたいことを語り合い、その想いを分かち合う場です。まずは他の方のお話を聴くだけでも構いませんし、個別での対応も致しております。

【日時】毎月第1金曜日　15時～　　【場所】4階談話室

【参加申し込み・問い合わせ先】

那珂川病院4階病棟　電話（代）:092-565-3531　担当:末松（病棟師長）・稲田（臨床心理士）

緩和ケア病棟基本方針

1. 患者さん、ご家族に寄り添い、信頼される質の高いケアを提供する。
2. スタッフ一人一人が役割を自覚し、個々の良さを充分発揮できる。
3. チームが連携をとり、助け合い、認め合い、共に考える環境をつくる。

緩和ケア病棟目標

1. 患者さんに苦痛がなく、持てる力を信じ、発揮できるようサポートする。
2. 患者さん、ご家族の思いに心を傾け、寄り添う。
3. 患者さんの生活環境への気配りをし、人生の振り返りができる状態を整える。

ボランティアだより

ビハーラ活動における傾聴ボランティア

ビハーラ福岡役員　堤 速生

私たちは、浄土真宗本願寺派の社会活動団体である「ビハーラ福岡」に所属する僧侶・寺族・門信徒のグループです。

「ビハーラ」とは、古代インドのサンスクリット語で「僧院・身心の安らぎ・休息の場所」を意味し、1980年代に仏教を背景としたターミナルケアの呼称として提唱されたものです。

「ビハーラ活動」は、仏教徒が医療・福祉と一緒になって生・老・病・死の苦しみや悲しみを抱えた人々を全人的に支援するケアで、その心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとする活動です。

私たちは、ビハーラ活動の理念を念頭におき、当院緩和ケア病棟で傾聴ボランティアをさせていただいています。毎月2回、3名～5名で訪問し、個室又は談話室にて患者さん、時にはそのご家族が心の不安や苦しみ、悩みを抱えておられる中で少しでも安らぎを感じられるようにお話をお聴きします。

しかし、真にお気持ちをくみ取り共感して傾聴することはたやすいことではありません。後になって、ちゃんと話を聴けただろうか、患者さんの気分を害しなかったか、安心していただけただろうかなどと思うことも多々あります。一方、伺ったお話を通して、私たち自身が人生の意義やいのちの尊さに気づかされることも多く、大変貴重な体験をさせていただいていると有り難く思っております。

今後も患者さんやご家族に少しでも安らぎを感じていただけるように、優しさと誠意をもって活動していく所存です。

クリスマス会

2019 那珂川病院 夏祭り開催

令和元年8月31日の第6回那珂川病院夏祭りに、大勢の地域の皆様に参加していただきありがとうございました。私は今回の実行委員長をしました那珂川病院の外科の古田斗志也と申します。秋雨前線が活発な中、奇跡的に夏祭りの日だけが雨が上がってしかも熱中症になる程暑くもなく、最高の天候に恵まれたのも地域の皆様のおかげと思っています。

実行委員の準備期間は2カ月間でした。過去の夏祭りの反省を生かして、より良いイベントにしようと忙しい仕事の合間を見つけて準備をして当日を迎えました。17時頃はお客さんもパラパラでしたので、本当にたくさんの地域の皆様が集まってくれるのだろうかと不安になりましたが、祭りが始まってからはそんな心配は杞憂でした。

テントでの販売もどこも長蛇の列ができ飲食物に限らず、朝倉の復興支援にご協力いただきまして、心より感謝申し上げます。また舞台での出し物も今回はレベルの高い出し物ばかりで、舞台前もお客さんが多数集まっていただいて素人離れした演奏、ダンス、曲芸、和太鼓など夏祭りを一層盛り上げていただきました。出演していただきました方、団体の方には心より感謝いたします。

1回目から関わっていただいているRKBの葉山さつきさんの流暢な司会をもって舞台の出し物もスムーズに時間通りに進行して、司会者の呼びかけのおかげで会場の車止めで転倒して怪我をする方もなく会を終えることができました。

何といっても一番盛り上がったのは抽選会の時でした。夏祭りにこんなにたくさんの方に参加していただいていたのだと舞台上から会場を見た時に感じました。当選した方はこの人数の中で当たったのですから、よほど運がいい方だと思います。おめでとうございました。

今回の第6回夏祭りは那珂川病院の60周年記念でもあります。那珂川病院が60年間持ちこたえてきたのも、ひとえに地域の皆様が病院を支えてきていただいたおかげだと思っております。これからも那珂川病院は地域の皆様の健康に貢献できたらと切に願っておりますので、今後70周年、80周年を迎えられるように温かく見守っていただければ幸いです。

また2年後の夏祭りで皆さんにお会いできることを楽しみにしております。

那珂川病院60周年記念第6回夏祭り2019：
実行委員長：古田斗志也

フォトギャラリー

ちくし那珂川病院 通信

リハビリテーション科　**中村 亮子**

みなさま、こんにちは！

平成26年、当院が喜悦会の一員となった年の7月に、リハビリテーション室は開設しました。開設時ひとりだった療法士も、現在は理学療法士3名、作業療法士2名、計5名で運営しています。私たちのモットーは、「気持ちいい挨拶を、自分から行う！」です。その思いを忘れないように、毎日の朝礼で挨拶の練習を行っています。「おはようございます！」「こんにちは！」「お疲れさまです！」朝から大きな声を出して、気を引き締めて仕事を始めます。

よい職場環境づくりは、気持ちいい挨拶から！　私たちが率先して行動できたらいいなと思っています。

那珂川病院 リハビリ研修会のご報告

リハビリテーション部
作業療法士　**木村 幸太**

先日、外部の病院からリハビリスタッフをお招きしてタナベセラピーの研修会を開催しました。研修会には片麻痺当事者の方々にもサポーターとしてボランティアで参加していただき、講義と実技を中心に行い、大変有意義な研修となりました。今回はタナベセラピーについてご紹介させていただきたいと思います。

タナベセラピーとは、麻痺肢の反復使用に耐えうる運動機能を至短時間に回復させるための複数のスキルを総称したもので、全国的にも普及されはじめています。最近は当院のリハビリ部でも積極的に取り入れている手技です。参加した職員は外部の参加者の皆さんと切磋琢磨し、また片麻痺当事者のサポーターさんと意見交換しながら、訓練技術の向上に励みました。

今後も交流を続けながら、更なる技術の飛躍に向けて、また日々の臨床で目の前の患者さんにより良い訓練が提供できるように頑張ってまいります。

ちくし那珂川病院

新任医師の紹介

内科　細谷 英作医師

福岡大学医学部卒業後、福島県立医科大学第三内科に入局し、主に糖尿病と腎臓の診察を受け持っていました。その後、2003年より福島県双葉郡にある双葉厚生病院に勤務しておりました。同院では主に訪問診療に携わっていました。

2010年11月勤めていた双葉厚生病院医局の長年の最大懸案事項及び双葉町の定住者促進委員会の最大案件であった「細谷の結婚問題」が解決されました（妻は隣の大熊町出身で双葉町定住者促進委員会は歯ぎしりして悔しがったそうですが）。

そして2011年3月11日、いつものように勤務をしていました。「あぁ～。そろそろ溜まった書類を記載しないと、せつかれんべぁ～」なんて考えながら医局にいました。そしてでっかい前震と感じた瞬間、経験したこともない大揺れが来ました。

あの「東日本大震災」です。机の下に潜り込み、建物が潰れないことを祈りつつ揺れがおさまるのを待ちました。しかし、築40年以上たった病院は、崩壊する危険もありいったん入院患者さんを全員屋外の駐車場に避難させました。しかし海岸までは2㎞の立地、津波の危険を察知してさらに隣接する新病棟の2階へ避難となりました。幸いにも、津波は病院の500m手前で止まりましたが、この事実を知ったのは震災後、1カ月以上経ってgoogle mapをみて初めて知りました。

眠れぬまま、ラジオやテレビの情報を見聞きし、最低限の処置と診察をしていました。情報が錯綜し避難場所も見いだせない状態で、受け入れ先となる病院も無く、トリアージもできる状態ではありませんでした。

八方塞がりの中、自衛隊の協力で先に動ける患者さんを送り出し、その後道路も寸断された中、福島交通がバスの臨時避難便を出してくれました。この時は、一番若かった私が引率して患者さんを避難させましたが、院長以下、副院長、看護部長などは留まることになりました（若い者から逃げろ。しかもお前は新婚さんだから先に行けと言ってくれました）。

東日本大震災時
一時帰宅中継基地において

避難後は患者さんを家族に引きあわせたり、協力していただいた病院に収容していただいたりと、ようやく一息つける状態となりました。それからは、医師会が協力し寄贈してくれた薬剤を持ちながら、双葉町住民が集団避難した会津地方のホテルへの診察や、白河市に建設された仮設住宅へ訪問診療をしていました。2年くらい経って何とか落ち着いてきた感じがしました。

そして双葉の職場が無くなり立ち入ることも困難となりました。そういえば、隣の福島県浪江町津島は、テレビで有名になったDASH村がありました（震災前から場所を知っていましたが公然の秘密）。そんな田舎の病院で勤務をしていていました。

その後紆余曲折を経て、大学卒業後25年ぶりに福岡市で勤務することになりました。私にとって大都会は、福岡市であり妻との話で都会の基準が福岡市であったことから、この際（！）田舎から都会に出てみようとなり、ちくし那珂川病院にお世話になることにしました。

ちょっと待っていれば、バスも電車も来て車なしでも十分生活できる都会で精いっぱい頑張りたいと思いますので、皆さまよろしくお願いいたします。

社会医療法人喜悦会グループ　外来担当医予定表（2019年9月現在）

※外来担当医予定は都合により変更となる場合がございます。ホームページなどでご確認ください。

りりい（令和元年9月号）VOL・3 発行 社会医療法人喜悦会 編集 日経メディカル開発

那珂川病院

■午前（診察時間／9:00～12:00）

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1	朔（第4のみ）（循環器内科）		両林（完全予約）（糖尿病内科）	大橋（内科）	中川（完全予約）（糖尿病内科）	片桐（第2･4のみ）（脳神経外科）
診察室2	立元（内科･禁煙外来）	立元（内科･禁煙外来）	安藤（循環器内科）	安藤（循環器内科）	森戸（循環器内科）	棚橋（第2.4.5のみ）
診察室3	筒井（内科）	今泉（循環器内科）	佐々木（内科）	藤澤（腎臓内科）	筒井（内科）	内科当番医
診察室5			眞田（外科）		吉村（外科）	外科当番医
診察室6	堤（外科）	吉村（外科）	井上（麻酔科）	古田（外科）	橋本（外科）	瀬尾（第3のみ）（外科）
診察室7		下川（外科）	大国（緩和ケア）	下川（外科）	ラウ（緩和ケア）	
診察室8	齊田（受付11時まで）（整形外科）	月江（緩和ケア）	齊田（受付11時まで）（整形外科）		齊田（受付11時まで）（整形外科）	
診察室10		齋藤（泌尿器科）		齋藤（泌尿器科）		

■午後（診察時間／13:00～17:00）

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1		大橋（内科）	両林（完全予約）（糖尿病内科）		大橋（内科）	
診察室2	安藤（循環器内科）		立元（内科･禁煙外来）		西村（循環器内科）	
診察室3	ラウ（緩和ケア）			筒井（内科）		
診察室5	眞田（外科）	眞田（外科）			行實（血管外科）	
診察室6	堤（外科）	野中（脳神経外科）		吉村（外科）	橋本（外科）	当番医
診察室7			古田（外科）	月江（緩和ケア）		
診察室10		泌尿器（担当医）（要予約）			齋藤（泌尿器科）	

交通アクセス　西鉄バス系統番号4番･47番･62番･620番　「那珂川病院前」下車すぐ　■駐車場150台

診療時間　平日 9:00～17:00　土曜日 9:00～12:00

休診日　日曜･祝祭日　年末年始（12/30～1/3）

※急患はその限りではありません

お問い合わせ先

TEL:092-565-3531
FAX:092-566-6460
※急患は24時間いつでも受診可能です。

常勤医師診療担当表

医師名▶担当領域

下川 敏弘（理事長）▶外科・呼吸器外科
吉村 寛志（院長）▶外科・消化器外科
大内田 敏行（副院長）▶放射線科
立元 貴（副院長）▶総合内科・糖尿病内科
古賀 善彦▶外科・リハビリテーション科
井上 彰子▶麻酔科
古田 斗志也▶外科・消化器外科
眞田 雄市▶外科・消化器外科
齊田 光▶整形外科
行實 崇▶人工透析・血管外科
筒井 伸一▶内科・消化器内科
安藤 智恵▶内科・循環器内科
藤澤 正寿▶内科・腎臓内科・人工透析
大橋 朋子▶内科・肝臓内科
齋藤 孝二郎▶泌尿器科
大国 貴史▶緩和医療・漢方内科
月江 教昭▶緩和医療・循環器内科
ラウ 芙美子▶緩和医療

ちくし那珂川病院

■午前（診察時間／9:00～12:00）

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1	松永 洋一	大石 華子	副島 祥	髙宮 陽介	野間 栄次郎	江崎 薫
診察室2	渡邊 昭博	渡邊 昭博 細谷 英作	渡邊 昭博 松永 洋一	担当医	担当医	整形外科医

■午後（診察時間／13:00～17:00）

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1	松永 洋一	大石 華子	副島 祥	髙宮 陽介	野間 栄次郎	休診
診察室2	細谷 英作	松永 洋一	渡邊 昭博	細谷 英作	細谷 英作	休診

住所　〒818-0072 筑紫野市二日市中央3-6-12　TEL:092-922-2246　FAX:092-922-5994

診療時間　平日 9:00～17:00　土曜日 9:00～12:00

休診日　土曜午後･日曜･祝祭日

交通アクセス

西鉄二日市駅(西口)より…徒歩約8分
JR二日市駅より…徒歩約5分

二日市共立病院

■午前（診察時間／9:00～12:30）

診療科	月	火	水	木	金	土
外来	重松 明博	重松 明博	重松 明博	重松 明博	重松 明博	重松 明博 植木 敏晴
					消化器 担当医	片桐 邦彦（第1･3･5週）

■午後（診察時間／13:30～17:30）

診療科	月	火	水	木	金	土
外来	竹中 理	片桐 邦彦	竹中 理 循環器 担当医（第1･3･5週）14:00～17:00	片桐 邦彦	竹中 理	休診

住所　〒818-0072 筑紫野市二日市中央2-10-1　TEL:092-923-2211　FAX:092-925-0415

診療時間　平日 9:00～17:30　土曜日 9:00～12:30

休診日　土曜午後･日曜･祝祭日

交通アクセス

二日市バス停より…徒歩1分
JR二日市駅より…徒歩3分
西鉄紫駅より…徒歩5分